楢葉町の“いま”
ー東日本大震災から10年を経てー

2021.3.13 日本都市計画学会　東日本大震災10周年シンポジウム

西﨑　芽衣

自己紹介

プロフィール

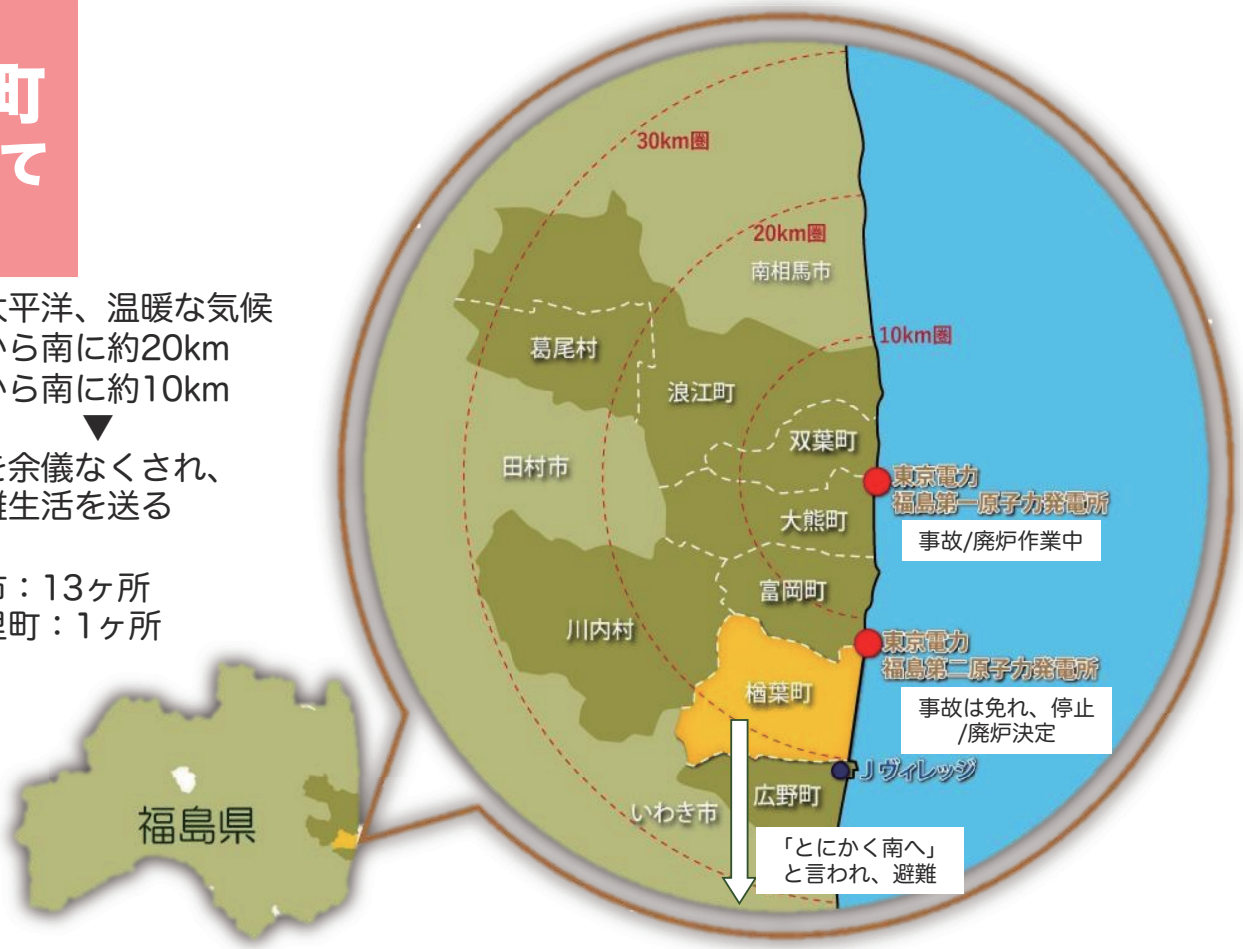
西﨑　芽衣

一般社団法人ならはみらい職員

＊1992年5月12日生まれ(28歳)
＊生まれは東京都 八王子市
＊立命館大学 産業社会学部 メディア社会専攻卒
＊福島県双葉郡楢葉町在住

楢葉町について

東側には太平洋、温暖な気候
第一原発から南に約20km
第二原発から南に約10km
▼
全町避難を余儀なくされ、
全国で避難生活を送る
[仮設住宅]
・いわき市：13ヶ所
・会津美里町：1ヶ所



楢葉町について

楢葉町の動きと人の流れ

	全町避難 2011年	9/5 避難指示解除 2015年 (10/30)	震災から１０年 2021年 (2/28)
人口	8,011名	▶ 7,415名	▶ 6,771名
居住者数	0名	▶ 321名	▶ 4,050名

2012年（1回生）

「被災地を自分の目で見たい」

岩手県 宮古市 (東日本大震災)

・神戸市長田区真野
(阪神淡路大震災)

・新潟県小千谷市塩谷
(新潟県中越地震)

2013年~（2回生~）

「震災の悲惨さ」を聴きたい。

[楢葉町] 町内の除染作業が進む

足湯を使った傾聴活動＠仮設住宅

感じたのは…
そこに生きる“ひと”の魅力ゃエネルギー

2014年 (3回生) -転機-

無知を知り、新たな一歩へ

アヤ子さんとの出会い@仮設住宅

避難指示が解除になれば、みんながふるさとに帰り、
元の家で暮らすんだと思い込んでいた。

**「ふるさとを離れ、
新しい場所で生活を始めます」**

京都からの関わりの中では知ることのできない、
想像しきれていない状況があることに気がついた。

▼

両親の反対(父からの条件、母からの言葉)
自分自身の不安との闘い
…休学を決意。
(一社)ならはみらい臨時職員として楢葉町へ。

2015年 (休学中)

真っ暗な町に１つずつ灯がもどる

[楢葉町]全町 避難指示解除

「今日、震災後初めて家で寝るんだ」

**当たり前の暮らしは、当たり前じゃない。
そして暮らしは、ひとが創っていた。**

2016年
(4回生)

私の「大切にしたいこと」って？

[楢葉町]米の出荷・病院開院・祭開催

「東京の大きい会社に入らなきゃ！」

▼

面接を経て募っていく、
自分の想いと言葉のギャップへの「違和感」

楢葉で、楢葉や周りの地域の人と一緒にいたい。
「自分のまち」を一緒に創っていきたい。

▼

「楢葉に住もう！」と決め、内定辞退。
（就職先が決まるのは卒業間近‥苦笑）

2017年~
(卒業・就職)

暮らし続けたいまちをつくる、一緒にいたい仲間を増やす

ー仕事ー
住民主体/新しい風

ー暮らしー
ご先祖様/ご近所/趣味

ー出会いー
住民/移住者/若者/母親

・納得しながら生きていく
・無いものはつくる
・あらゆる立場の人との
　対話をやめない。
・知り続ける。

最後に

これからの心配事。

一時的な予算でつくってしまったもの。
これからどうしよう？

楢葉を離れた人たちを
置いていかない

地域の小さな取り組みも
お金の切れ目が
活動の切れ目にならないように

まちを存続するための
移住施策なんかいらない。
“町民のために”進めるべき。

ひととひとが繋がり、
対話をして、知恵を絞り、
一緒にもがきながらつくるから、
まちが個性を持ち、おもしろくなる

ありがとうございました！